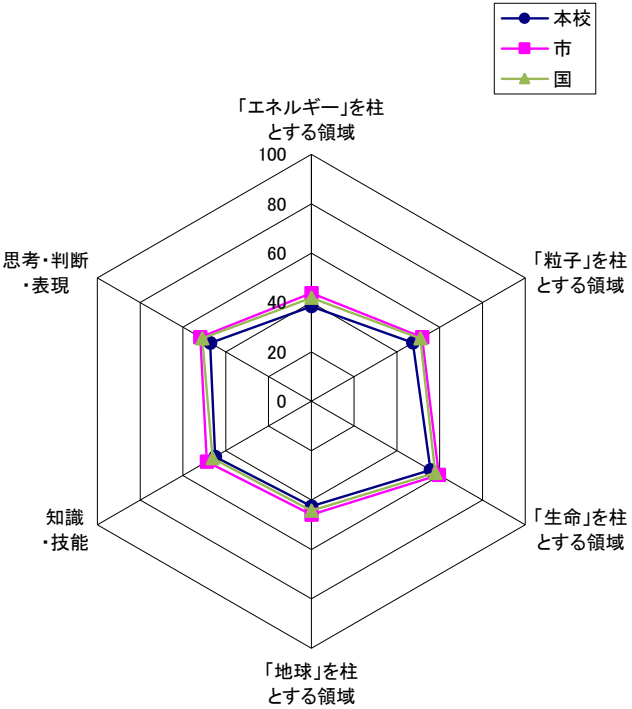


宇都宮市立陽南中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	38.4	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	47.4	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	55.7	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	42.5	45.9	44.3
観点	知識・技能	44.9	48.8	46.1
	思考・判断・表現	47.3	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○「日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象」についての問題では、全国より6.4ポイント、県より2.6ポイント上回っている。 ●「ばねが縮む長さが、加える力の大きさに比例するか」という課題に対する考察を行うために、正しいグラフを選択する問題では、全国より9.4ポイント、県より11ポイント下回っている。 ●考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する問題では、全国より8.6ポイント、県より8.5ポイント下回っている。	・課題を解決するために、実験の結果を整理し、表やグラフにまとめる技能を指導する。 ・データの読み取りや規則性を見出したりする演習を繰り返し行い、理解度を高める。 ・小テストの実施やAIDリルを活用し、知識を確実に習得させる。
「粒子」を柱とする領域	○「分子モデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す」問題は、全国より0.1ポイント、県より0.8ポイント上回っている。 ●「吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した1つの実験だけを行った考察について、検討し、必要な実験を指摘する」問題では、全国より11.1ポイント、県より11.5ポイント下回っている。	・実験の考察を記す際に、その実験結果が考察の根拠として十分かどうかをしっかりと考えさせる。考察の根拠として足りない場合には、さらに必要な実験を指摘する。 ・実験の計画をする機会を増やし、実験から考察に至るまでの全体の理解度を高める。
「生命」を柱とする領域	○「脊椎動物に共通する骨格のつくり」についての問題では、全国や県より1.5ポイント上回っている。 ●「予想や仮説を異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考える問題」では、全国より8.3ポイント、県より9.4ポイント下回っている。	・予想や仮説と異なる結果が出る場合についての意味、原因をしっかりと考えさせる。気づくことができない場合には、どのような原因が考えられるかを具体的に説明していく。 ・観察・実験では、その操作や条件制御が必要となる意味を考えさせて探究をする機会を増やしていく。 ・観察・実験を行った際に、考察の記入に取り組みやすいように、本時のねらいやキーワードを明確にする。
「地球」を柱とする領域	○露頭している地層の断面を見て、地層の傾きを考える問題では、全国や県より3.6ポイント上回っている。 ●古生代の化石が発見された場所から、垂直方向の変動だけでなく、水平方向の変動も踏まえた考えができるかという問題では、全国より4.4ポイント、県より3.5ポイント下回っている。	・過去の地殻変動について、垂直方向と水平方向のどちらの移動も考えられるようにする。また、他者の考察を検討して改善できるように、基本的な知識も身に付けていく。